2024年10月1日発行（1、4、10月の1日発行・年3回）通巻1181号

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

ユネスコ

2024.10
vol. 1181

「道遊（どうゆう）の割戸」相川金銀山の中でも開発初期の採掘地とされる江戸時代の露頭掘り跡。巨大な金鉱脈を人力で掘り進んだ結果、山がV字に割れたような姿になった 。（写真提供：新潟県）

CONTENTS

1 特集：新たに世界遺産リストに登録された「佐渡島の金山」
3 TOPICS
●日本ユネスコ国内委員会が発表「国際情勢等を踏まえたユネスコ活動等の推進についての提言」
●世界寺子屋運動は35周年を迎えました
5 活動報告
●高校生カンボジアスタディツアー 5年ぶりの現地開催
●U-Smileプログラム 体験活動支援
●未来遺産運動「プロジェクト未来遺産2023」登録証伝達式レポート
8 ユネスコ活動の広場
●「令和版！平和の鐘を鳴らそうプロジェクト」
●新規加入会員のご紹介
●「令和6年能登半島地震」支援 ユネスコ協会・クラブによる活動
11 お知らせ
定時総会・理事会・評議員会報告

「佐渡島（さど）の金山」が世界遺産（文化遺産）として登録

2024年7月24日～31日、第46回世界遺産委員会がインドのニューデリーで開催されました。日本から申請されていた「佐渡島の金山」（新潟県佐渡市）は、「世界の他の地域において採鉱等の機械化が進んだ時代に、高度な手工業による採鉱と精錬技術を継続したアジアにおける他に類を見ない事例である」として、世界遺産リストに登録されました。（詳細はP.1～2）

このほか、新たに合計24件（文化遺産19件、自然遺産4件、複合遺産1件）の遺産が世界遺産リストに登録され、総数は1223件（文化遺産952件、自然遺産231件、複合遺産40件）となりました。

また、世界遺産としての価値が危機的な状況にある「危機にさらされている世界遺産リスト（危機遺産リスト）」は、「ニオコロ-コバ国立公園」（セネガル共和国）が、危機的な状況を脱したとして危機遺産リストから解除されました。一方、パレスチナ自治政府により申請された 'The Monastery of Saint Hilarion/Tell Umm Amer' in Palestine' は、進行中のガザ地区での紛争の影響により、世界遺産リストへの登録と同時に危機遺産リストへも緊急登録となり、危機遺産リストは合計56件となりました。

きょういくで、あしたへいく。

特集

新たに世界遺産リストに登録された「佐渡島の金山」

第46回世界遺産委員会で、日本から申請されていた「佐渡島の金山」（新潟県佐渡市）が、世界遺産リストに登録されました。今号では、新潟県の世界遺産登録推進室で、長年にわたり本遺産の登録に尽力された小田 由美子氏ならびに澤田 敦氏に、「佐渡島の金山」ついてご寄稿いただきました。

虎丸山（西三川砂金山）

西三川砂金山は、平安時代末（12世紀末）から採取されたと推定される佐渡島最古の金採掘地。虎丸山は、江戸時代に山肌を掘削して砂金を採取した砂金山最大の採掘跡。

登録に至るまでの道のり

1997年頃から、佐渡で佐渡金銀山遺跡の世界文化遺産登録に向けた動きは始まっていましたが、2004年の市町村合併による一島一市の佐渡市誕生によってその機運が高まり、2006年から新潟県（以下、「県」）も佐渡市（以下、「市」）と共同で取り組むことになりました。ちょうどこの年に、文化庁にて世界文化遺産暫定リスト候補の公募が始まり、県市共同で、400年にわたる近世から近代にかけての鉱山技術と文化に焦点を当てた提案書「金と銀の島、佐渡―鉱山とその文化―」を文化庁へ提出しました。2007年に2回目の公募が行われ、既に世界遺産に登録されていた石見銀山との統合を条件に国内の暫定リスト記載が決定しましたが、最終的には、2010年に「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」として単独で暫定リストに記載されました。

佐渡金銀山は、構成資産候補の多くが世界遺産推薦の要件である保護措置としての国の文化財に指定・選定されていなかったため、鉱山遺跡の分布調査、地形測量、発掘調査などを進めるとともに、現在も多くの人びとが暮らすかつての鉱山集落の調査研究にも取り組みました。住民の方々と話し合いを重ね、遺跡の価値を理解していただきながら信頼関係を深めていきました。最終的に地域の理解を得て、国史跡と国重要文化的景観に指定・選定することによって構成資産の保護を担保しました。また、佐渡金銀山の世界的な価値を明確にするために、国内外の研究者の協力を得て、学際的な研究にも取り組みました。中でも百数十年にわたって描き継がれた「佐渡金銀山絵巻」は、世界的にも類例がなく、徳川幕府の管理運営や鉱山技術の変遷の様子などを示すものとして高く評価され、推薦書の内容にも反映されました。

2010年の暫定リスト記載後は、「佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会」を設置し、UNESCOに提出する推薦書原案の作成を始めました。推薦書原案は都合６回提出しましたが５回（内1回はコロナ禍による世界遺産委員会延期による）は推薦に至らず、国の文化審議会から多くの課題が指摘されました。その度に学術委員会で検討を重ね、世界遺産としての価値（OUV）※1を証明する時代や構成資産が近世に絞り込まれました。

2021年12月、文化審議会世界文化遺産部会は「佐渡島の金山」を推薦候補として選定することを答申し、2022年2月に推薦書がUNESCOに提出されました。その後、2023年1月の推薦書再提出を経て、同年3月からICOMOS※2による審査が行われました。8月には、ICOMOSの調査員による現地調査が実施され、遺構の状況、保全管理の状況、地域の協力状況等について確認がなされました。県・市では国と連携してICOMOSの審査に対応するとともに、「佐渡島の金山」の文化遺産としての価値の国際的な理解を促進するため、花角県知事・渡辺市長によるパリでのセミナー、駐日外交団の佐渡視察ツアーや外務省飯倉公館におけるセミナー等を実施しました。

ICOMOSは、2024年6月に審査結果を「情報照会」と勧告し、①北沢地区の資産範囲からの除外、②緩衝地帯の拡張、③鉱業権者が商業採掘を再開しない約束の明示について追加情報を求めました。一方で、ICOMOSは資産について世界遺産登録を考慮するに値する価値を有すると認め、推薦書において「佐渡島の金山」が該当する価値の判断基準として示した基準※3 ⅲ、ⅳのうち、基準ⅳに該当するとしましたが基準ⅲは認めず、推薦書では基準ⅲを示すものとしていた佐渡奉行所

や集落は基準ⅳに該当するものと評価しました。日本政府と県・市は、7月にインドで開催されるUNESCOの世界遺産委員会での登録を目指すこととし、上記①～③の求めに応じる方向で作業を進め、3件の指摘に対応しました。

こうして迎えた世界遺産委員会において、2024年7月27日、「佐渡島の金山」は登録のコンセンサスが得られ、世界遺産リストへの登録が決定しました。

「佐渡島の金山」の世界遺産としての価値

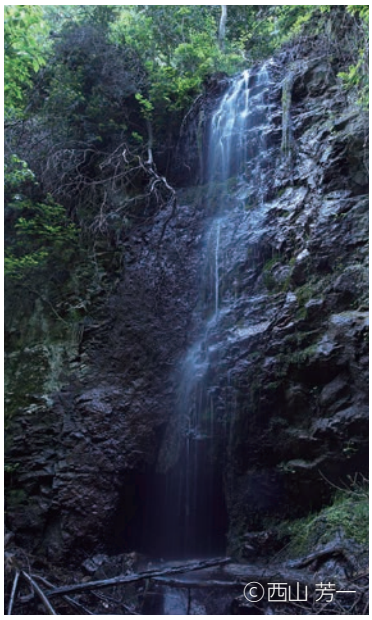
「佐渡島の金山」は、本州中央から北西方向に約55km離れた日本海に浮かぶ佐渡島に所在し、砂金鉱床の西三川砂金山と鉱脈鉱床の相川鶴子（あいかわつるし）金銀山の二つの主要な鉱山地域からなります。西三川砂金山では独特の採掘法による砂金採取、相川鶴子金銀山では露頭掘り、ひ追い掘り、坑道掘りによる採掘から選鉱、製錬・精錬を経て小判製造に至る一連の工程の金生産が行われました。高度な測量技術や高純度の金生産を可能にした灰吹法や焼金法などの製錬・精錬技術によって特徴づけられる金生産技術は、手工業段階の金生産の最終形態といえる高度なものです。

「佐渡島の金山」は、「世界の他の地域において採鉱などの機械化が進んだ時代に、高度な手工業による採鉱と製錬技術を250年以上にわたり継続したアジアにおける他に類を見ない」貴重な文化遺産です。江戸時代（17～19世紀半ば）に徳川幕府によって手工業を効率化するための管理体制と労働体制が構築されたことで17世紀には世界有数の金鉱山として高品質の金を大量に生産することができました。これらのことは鉱山地域・集落地域の遺跡によって証明されています。

「佐渡島の金山」の今後

登録にあたっては、資産の保存・管理に関して取り組むべき課題や長期的な調査戦略の構築などが勧告されました。この素晴らしい遺跡を次世代に継承する責務を果たすため、資産の保存・管理や調査にしっかりと取り組むとともに、多くの方々に現地に足を運んでいただいて、その魅力に触れていただけるよう、「佐渡島の金山」の価値の発信に努めたいと考えています。

※1 OUV：Outstanding Universal Valueの略で、人類共通の世界遺産としての「顕著な普遍的価値」のこと。
※2 ICOMOS：人類の遺跡や建造物の保存を目的として、1965年に設立された国際的な非政府組織。UNESCOの世界遺産センターの諮問機関として、文化遺産の調査を行う。
※3 世界遺産の評価基準として、(i)～(x)の10項目が設けられている。（ⅲ）は、現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統または文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも稀有な存在）である。（ⅳ）は、歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本である。

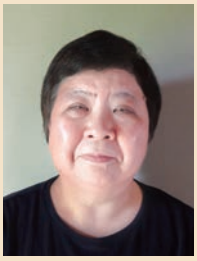


大滝間歩（おおたきまぶ）（鶴子銀山）
鶴子銀山では露頭掘り、ひ追い掘り、坑道掘りの痕跡が多くみられる。大滝間歩は、坑道入口が後に滝つぼとなった。

佐渡奉公所（御役所玄関）
徳川幕府が金銀山を含む佐渡全体を管理・統治するために設置した奉行所跡。建物は昭和17年に焼失し、その後御役所、勝場が復元整備されている

写真提供：すべて新潟県

小田 由美子（おだ ゆみこ）
1961年新潟県生まれ。國學院大學大学院修了。1991年新潟県庁入庁。県内各地の公共事業に伴う発掘調査等に従事。2006年世界遺産担当となり、以後佐渡金銀山の世界遺産登録推進に取り組む。2020～2022年新潟県世界遺産登録推進室長。専門は日本考古学。



澤田 敦（さわだ あつし）
1964年新潟県生まれ。1991年東北大学大学院中退（2020年修了、文学博士）、同年新潟県教育庁入庁。埋蔵文化財の保護や発掘調査等に従事。2020年から新潟県世界遺産登録推進室にて（2022年から室長）、佐渡の世界遺産登録推進に取り組む。専門は日本考古学（先史時代）。

日本ユネスコ国内委員会が発表
「国際情勢等を踏まえたユネスコ活動等の推進についての提言」

昨今の国際情勢を踏まえ、日本ユネスコ国内委員会(※)より本年3月28日に標記提言が発表されました。提言では、今期ユネスコ中期戦略期間中（2022〜2029年）に成果をあげるよう取り組むことが期待されています。

提言のポイントは右記の通りで、民間ユネスコ活動を推進する私たちにとって非常に重要なことが記載されています。提言の全文は文部科学省ホームページで見られますので、会員の皆さまやユネスコ活動に関心のある方はぜひご覧ください。

文部科学省ホームページへのリンク
URL：https://www.mext.go.jp/unesco/002/004/1346101_00001.htm

(※) 日本ユネスコ国内委員会…UNESCOに加盟した国は、教育、科学及び文化の事項に携わっている主要な団体をUNESCOの事業に参加させるために、国内委員会を設立することが望ましいとUNESCO憲章で定められています。これを踏まえ、1952年に日本ユネスコ国内委員会が設置されました。事務局は文部科学省国際統括官付に置かれています。

提言のポイント1

【UNESCOの使命の再確認】

ウクライナ侵攻をはじめ国際平和を脅かす事態が発生しているときだからこそ、「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と謳うUNESCO憲章前文の意味を改めて理解するとともに、UNESCOの普遍的な使命を再確認することが重要です。

提言のポイント2

【ユネスコ活動に期待される役割】

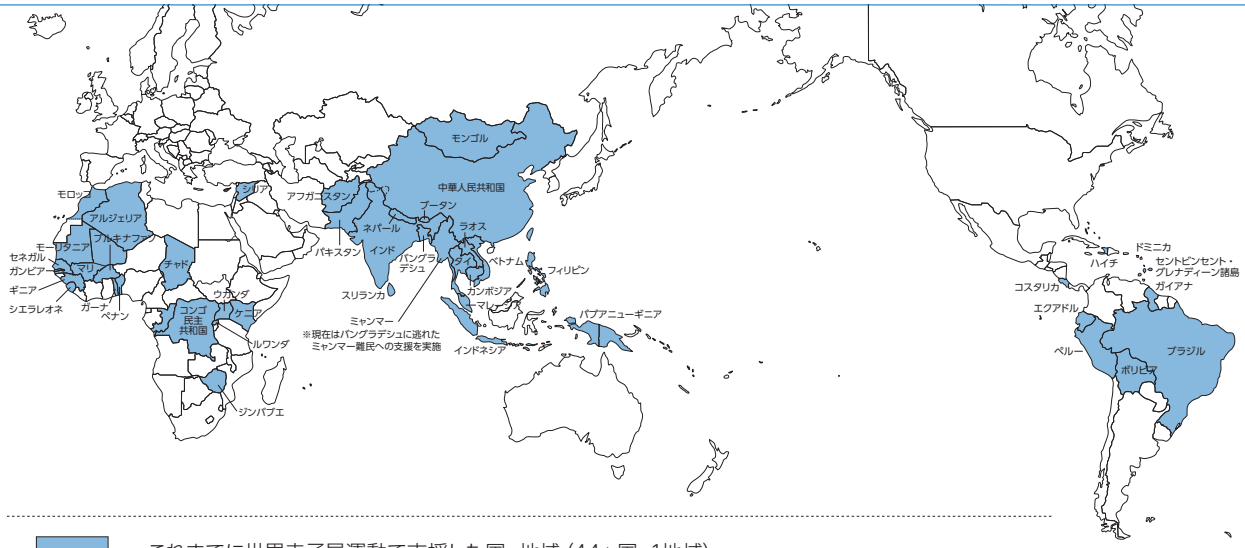
今回の提言では、「国内のユネスコ活動の在り方」として、私たちが地域で展開するユネスコ活動についても触れられています。ユネスコ協会･クラブをはじめとする民間団体、自治体、企業などが協力し合い、ネットワークを広げ連携することが求められています。

富士電機株式会社　〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2（ゲートシティ大崎イーストタワー）TEL.03-5435-7111

世界寺子屋運動は35周年を迎えました

世界寺子屋運動は、世界の貧困地域に「学びの場＝寺子屋」をつくり、基本的人権である教育を受ける機会に恵まれなかった人びとを支援し、ともに学び合う（Co-Action）草の根運動として、当連盟が1989年に開始しました。識字教育から始まった寺子屋は、貧困のサイクルを断ち切るために職業訓練や子どもたちの学びなおしクラスを加え、持続可能な社会の構築に資する人材を育成する生涯学習の場としても発展を遂げてきました。これまで44ヵ国1地域で約135万人に学習の機会を提供してきました。

現在はカンボジア、ネパール、アフガニスタン、ミャンマー（バングラデシュ）において、基礎教育や職業訓練、寺子屋運営者の育成などの活動を展開しています。　（海外事業部）



… これまでに世界寺子屋運動で支援した国・地域（44ヵ国・1地域）

アフガニスタン／アルジェリア／インド／インドネシア／ウガンダ／エクアドル／ガイアナ／カンボジア／ギニア／ケニア／コスタリカ／コンゴ共和国／コンゴ民主共和国（旧ザイール）／シェラレオネ／シリア／ジンバブエ／スリランカ／セネガル／セントビンセントおよびグレナディーン諸島／タイ／チャド／中華人民共和国／トーゴ／ドミニカ／ネパール／ハイチ／パキスタン／パプアニューギニア／バングラデシュ／フィリピン／ブラジル／ブルキナファソ／ベトナム／ベナン／ペルー／ボリビア／マリ／マレーシア／ミャンマー／モーリタニア／モロッコ／モンゴル／ラオス／ルワンダ／ガザ地区

カンボジア　チョンクニア寺子屋の実績 ―18年間を振り返って

現在のカンボジアでの実績を紹介します。カンボジアでは、2006年よりシェムリアップ州で「アンコール寺子屋プロジェクト」を展開してきました。

チョンクニア寺子屋では、2006年以降、地域の成人人口の12%にあたる約500人が、識字クラス※1を通じ学んできました。識字クラス修了者の中には、字が読めることでできる仕事に就いたり、ビジネスを始めたりして収入を向上させ、貧困のサイクルから抜け出す人や、村長や公務員など地域社会の発展に尽力する人も多くいます。

ナレン・アムさん（2008年 識字クラスに参加）現在は村長を務める

同寺子屋の重要な成果として、ホテイアオイ（水草）手工芸の職業訓練と商品販売を通じて、地域の人びとの経済状況を改善したことも挙げられます。受講者の中には、プロの職人となって各方面に技術を広め、国レベルに活躍の場を広げる人もいます。かつては無用と考えられていた水草が、いまでは持続可能な収入を生み出す天然資源と認識されるようになりました。受講者たちが家族などに取り組みを広げ、チョンクニアだけでも100人を超える人びとが手工芸品づくりに関わっているほか、同様のプログラムはカンボジア全土に広がっています。

チョーム・ラーさん（右端）（2007年 職業訓練に参加）4人の子どもたちにホテイアオイ手工芸の技術を伝え家族で商売を行っている

寺子屋のこれらの活動の成果もあり、基礎教育の有用性が浸透した結果、2006年当時48%だった地域の識字率※2は、現在83%まで改善しています。

※1　識字クラス…さまざまな事情で教育の機会が得られないまま大人になった人びとを対象として、基本的な読み書き計算を教えるクラス。世界寺子屋運動では、子どもだけでなく大人も対象とした教育支援を行っている。

※2　識字率…日常生活の簡単な内容についての読み書きができる15歳以上の人口の割合。現在、世界には非識字者が約7億6300万人いるとされ、これは世界の15歳以上人口の7人に1人にあたる。

高校生 カンボジアスタディツアー 5年ぶりの現地開催

標記ツアーは、公益財団法人かめのり財団との共催で、全国のユネスコスクールの高校生、または全国各地のユネスコ協会・クラブの推薦を受けた高校生を対象に、2014年度から毎年夏に実施しています。世界寺子屋運動をはじめとした国際協力の現場を実際に訪問し、現地に暮らす人びととの交流を通して、教育や文化、SDGsの観点から、カンボジアが抱える課題や日本の支援の在り方を学びます。

コロナ禍の影響で2020～2023年度はオンラインで実施しましたが、今年度は5年ぶりに現地を訪れることができました。オンライン上でも寺子屋の授業やマーケットの様子を見学したり、寺子屋の子どもたちに質問をしたりすることはできました。しかし、実際に寺子屋の教室で積極的に授業に向かい、勉強が楽しいと口々に話す学習者たちの熱意に触れたこと、子どもたちと折り紙で紙飛行機をつくって飛ばして遊んだ思い出、色とりどりの果物が並ぶ活気に満ちたマーケットの散策など、現地に行ったからこそできた体験が多くありました。参加した高校生たちは、それぞれの訪問先で受けた衝撃や感動を多くの人に伝えるため、今後は学校内外で事後活動に励みます。

今回は、参加した高校生たちの感想と、引率団長を務めた当連盟の岸理事、カンボジア事務所のブッタ所長のツアーへの思いを紹介します。　（学校支援部）

旅程表

1日目　7月29日
事前研修会（成田）

2日目　7月30日
移動日　成田→（ホーチミン乗り継ぎ）→プノンペン

3日目　7月31日
在カンボジア日本国大使館／UNESCOプノンペン事務所／トゥールスレン虐殺博物館／国立博物館

4日目　8月1日
キリングフィールド／移動（プノンペン→シェムリアップ）

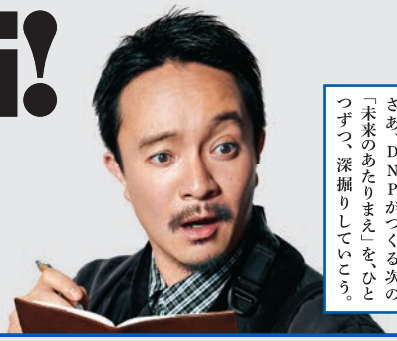
5日目　8月2日
日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所／リエンダイ寺子屋（小学校クラス・中学校クラス）／寺子屋学習者の自宅／リエンダイ寺子屋（成人識字クラス）

6日目　8月3日
アンコール・ワット／バイヨン寺院

7日目　8月4日
ラップアップミーティング／オールドマーケット巡り／移動（シェムリアップ→ホーチミン）

8日目　8月5日
移動（ホーチミン→成田）

DNP FUTURE PRESS
DNPの一面!
DNPがつくる未来のあたりまえとは!?



常識は日々アップデートされていく。ここは、多彩な技術と視点をもつ人々が出会い、混ざり、掛け合わさりながら、まだ見たことのない新しい未来を自ら描きだす場所。その名前は、DNP。ときには、分野や企業の垣根を越えて、人々の身近にあたりまえに存在する欠かせない価値を生みだし続けている。さあ、DNPがつくる次の「未来のあたりまえ」を、ひとつずつ、深掘りしていこう。

未来のあたりまえをつくる。DNP　DNPの一面
大日本印刷

教育を受けられることは、決して当たり前ではない

立教女学院高等学校　1年　Rioko M.

私は、第8回カンボジアスタディツアーに参加してカンボジアの教育、文化、歴史などさまざまなことを学ばせていただきました。その中でもとくに心に残っているのは、リエンダイ寺子屋を訪問したときのことです。寺子屋に通う子どもたちは、笑顔で将来の夢を話してくれました。警察官、医者、学校の先生など夢はさまざまでしたが、どの夢にも誰かのために働きたいという気持ちが共通していました。それぞれの形で誰かの幸せに貢献するために勉強がしたいと語る子どもたちを見て、幸せを生み出す「教育」の重要性を実感しました。また、子どもたちにいま1番ほしいものは何か聞くと、ノートやペンといった文房具の回答が多く、正直驚きました。いままで私は、教育を受け学べることを、どこか当たり前と感じていました。しかし、カンボジアの子どもたちとの交流の中で、当たり前が存在しないと改めて感じるとともに、彼らのために出来ることを行動していきたいと強く思いました。今回のスタディツアーの経験をこれからも広く周りに伝え、自分にできることを模索し続けていきたいです。最後にこのツアーを支えてくださったすべての方に感謝を伝えたいです。

寺子屋の子どもたちに
紙飛行機の折り方を教えた

現地の人びとや地域に寄り添った支援の重要性

名古屋大学教育学部附属高等学校　2年　Ria K.

私が今回のスタディツアーで得た一番の学びは貧困と支援に対する考え方です。日本大使館やUNESCOプノンペン事務所、日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所への訪問を通して、私は①「現地の人と協力する支援」、②「地域に寄り添う支援」③「地域の人びとのニーズに応える支援」の3つの支援を学びました。

まず、現地の人と協力する支援は、現地の人が自ら考え、行動する力や技術を身につけることで、外国の援助がなくなっても自立できるシステムが出来上がっていくことにつながります。それから、地域によって人びとの暮らしは大きく違うので、その地域の特性を考慮した支援も考える必要があります。そして、どんな支援をするにしても、現地の人びとがそれを求めていなければ意味がありません。

以前の私は、貧しい人びとの生活水準を引き上げるための援助がよいと考えていました。しかし、いまは支援する側が一方的に介入するのではなく、現地の人とともに、人びとや地域に寄り添った支援を行っていくことが重要だと考えるようになりました。

スタディツアーでは仲間と一緒にカンボジアに対する理解を深めたとともに、新しい視点で貧困と支援について考え直すことができました。私のカンボジアでの体験は一生心に残るものになったと思います。

学習者の自宅を訪問し、
近隣の子どもたちとも交流した

時代は分断を乗り越える人材育成を求めている

日本ユネスコ協会連盟理事
藤岡地方ユネスコ協会会長　　岸　正博

7月30日から8月5日、5年ぶりに再開された「高校生カンボジアスタディツアー」に同行しました。カンボジアの世界遺産の状況やユネスコ世界寺子屋運動の現地見学・交流を主とし、高校生の未来に希望を託す事業だと考えています。参加した高校生たちからは、「教育はいい意味でも悪い意味でも人を変える」「寺子屋が生きていくための生涯教育となっている」「教育は人生のスタートライン」といった感想を聞いています。

カンボジアの街並みを歩いていると、ポルポト政権下からの国や文化の復興・成長過程にあり、経済援助の名のもと、大国の影響が感じ取れました。バイクに3人乗りで離れた店への買い出し、学校の送り迎えなど、日本製のバイクが活躍していた様子も見られました。参加した高校生たちにとって、寺子屋訪問だけでなく、博物館への訪問や町の空気に触れる時間も、視野を広げるよい経験になったと思っています。

非識字や貧困の課題について学ぶきっかけに

日本ユネスコ協会連盟カンボジア事務所所長
ノン・ブッタ

日本の高校生の皆さんが、このスタディツアーを通して多くのことを学ばれたことを嬉しく思います。彼らが非識字や貧困の解決に取り組む世界寺子屋運動について理解してくれたことは素晴らしいことです。

寺子屋を通じ、小学校を中退してしまった人びとの学びを後押しするこの活動は、言葉ではいい表せないほど重要です。寺子屋は、社会的弱者、恵まれない人びと、社会から疎外された人びとが、さらなる教育やキャリア開発の機会を得るための架け橋となっています。

今回のカンボジア訪問によって、ツアーに参加した高校生たちが、貧困の中で暮らす人びとが直面する課題や、これらの障害をどうしたら克服する手助けができるのかという点について、より多くのことを学ぶきっかけになることを願っています。

ともに学ぶ、寺子屋の学習者と
日本の高校生

U-Smileプログラム　体験活動支援

山口県宇部市との連携協定に基づき14団体で組成された「こどもの未来共創ワーキングチーム」では、地域の子どもを取り巻く実情を把握し、地域課題への取り組みについて定期的に協議しています。

今年度の春から夏にかけて、普段社会体験をしづらい家庭の子どもたちのために、ワーキングチームによるさまざまな体験活動を行いました。

体験活動の第１弾として、5月19日(日)に「こどもワンダーピクニック」を実施しました。行先は、宇部市最大で動物園も併設しているときわ公園。ワーキングチームメンバーである山口大学の学生団体（ウベカレ）が企画運営をし、宇部市内の小学生28名が、公園内での彫刻スケッチや、動物園クイズラリーなどをしながら、大学生と一緒に楽しい時間を過ごしました。参加した子どもたちからは「大学生のお兄さん、お姉さんと一緒に過ごせて嬉しかった」といった感想が多く寄せられ、保護者からも「楽しそうに報告をしてくれた。なかなか外出する機会をつくってあげられないので、本当に助かりました」という言葉をいただきました。

ほかにも、市内の小中高生を対象に、夏休みの体験活動として、レノファ山口FCのサッカー観戦や１泊２日の福岡バス旅行、ワーキングチームメンバーである（株）ファーストリテイリングの職場体験を実施しました。

子どもたちは、ピクニックや旅行を楽しんだほか、職場体験ではユニクロ宇部清水川店での業務を体験して、普段は見られない働く現場の裏側を知ることができ、意義のある体験活動支援になったと考えています。

（教育と社会の課題支援部）

動物園でサルを観察する子どもたち。大学生が付き添い、楽しい時間を過ごせた

未来遺産運動　「プロジェクト未来遺産2023」登録証伝達式レポート

本年3月、地域の文化や自然を守り伝える市民の活動「プロジェクト未来遺産」に新たに4プロジェクトが登録されました。6月から7月にかけて、各地で開催された登録証伝達式の様子を報告します。（文化事業部）

NPO法人　津波太郎　巨大防浪堤を未来へ～岩手県宮古市田老の津波防災伝承活動～

6月9日（日）に岩手県宮古市で開催された伝達式には、宮古市長をはじめ地元関係者ら約100名が集まりました。未来遺産委員会の佐藤桂委員から大棒秀一理事長らに登録証が授与され、大棒理事長が「先人の津波との闘いを100年後の子どもたちに伝えたい」と決意を語りました。最後に、田老第一小学校5・6年生により、活動のシンボルともなっている「防浪堤」が歌詞に入った校歌が披露され、関係者を力づけました。

どんちっちサポートIWAMI　伝統芸能石見神楽を未来に継承サポートプロジェクト

6月23日（日）、島根県浜田市で開かれた「第27回いわみ子供神楽フェスタ2024」で、会場に集まった観客ら約500名の見守る中、伝達式が開催されました。フェスタでは、市内10の神楽団体に所属する子どもたちが、1年間かけて習得した演目などを披露しました。伝達式では、未来遺産委員会の齊藤裕嗣委員から半場徳一会長らに登録証が手渡され、半場会長は「今後も活動を通じて後継者を育成していきたい」と意気込みを語りました。

備中とと道トレイル推進協議会
歩こうこどもたち！～未来につながる「備中とと道」～

7月6日（土）に岡山県高梁市成羽町で開催された伝達式には、沿道4市町の首長ら200名を越える関係者が集まりました。未来遺産委員会の西山徳明委員から小見山節夫会長らに登録証が手渡され、小見山会長は「県や沿道自治体の皆さん、次世代を担う子どもたちと一緒に備中とと道の歴史を多くの方々に伝えていきたい」とコメントしました。

白鳥神社神楽保存会　五島に残る玉之浦神楽～子どもたちへの伝承プロジェクト～

6月5日（水）、長崎県五島市玉之浦町で開催され、地域住民総勢100名近くが集まりました。未来遺産委員会の西山厚委員から越首伸之助会長に登録証が授与され、関係者らは、地区の高齢化と人口減少により中断している白鳥神社例大祭の復活を誓いました。記念神楽公演では、舞の披露と紅白の餅まきが行われ、地域住民らが登録の喜びを分かちあいました。

ユネスコ活動の広場

「令和版！平和の鐘を鳴らそうプロジェクト」とは

「平和の鐘を鳴らそう」運動は、平和への祈りと願いを込めて、地域のお寺や教会などの鐘を鳴らそうと呼びかける運動です。2000年にUNESCOが提唱し国連が定めた「平和の文化国際年」のキャンペーン事業として、当連盟が全国のユネスコ協会・クラブに取り組みを呼びかけました（2000年以前から取り組んでいる協会・クラブもあります）。鐘の音に乗せて平和を祈るこの運動は日本中のユネスコ協会・クラブに広がり、民間ユネスコ運動の日（7月19日）や終戦の日（8月15日）には、多くの寺院などで鐘が鳴らされています。

20年以上継続してきたこの運動を次世代につないでいこうと、青年会員有志が「平和の鐘を鳴らそう」運動の新しい展開を考えるプロジェクトを立ち上げました。８月４日（土）、プロジェクトの一環として、渋谷区で対面・オンラインのハイブリッド形式でイベントを開催。主催した青年会員有志が報告します。（組織部）

講演会とワークショップのイベントを開催

第一部は、ルワンダのスラム街の青年とともにアート事業を行う大学生、藤井健人さんの講演会を行いました。藤井さんは、活動に至った経緯やルワンダの青年に対する今後の展望を語りました。日本の大学生が社会課題解決のためのアクションを展開する熱意に触れ、参加した青年会員は平和について考える活動のヒントを得ることができました。

第二部では「平和だと思う瞬間」の写真を共有し、その平和を守っていくために自分には何ができるかを話し合いました。平和だと思う瞬間として、広島の様子や美しい自然風景、家族の写真などをそれぞれ持ち寄り紹介。その平和が脅かされたら自分に何ができるか、個人の草の根レベルから国家レベルまで、さまざまな取り組みのアイデアが出されました。平和への祈りと願いを込めて鐘を鳴らすように、平和についての価値観を分かち合い、考えを共有する機会となりました。

（実行委員会 青年会員有志）

それぞれが考える”平和だと思う瞬間”の写真を見せ合い、平和について話し合うきっかけとした

藤井　健人
2022年にルワンダへ初渡航、2023年８月にルワンダのスラムに住むアーティスト Biz imungu Olivier氏と２人でBizziを開業。主に絵画やグッズの販売をしている。

◆新規加入会員のご紹介◆

構成団体会員

文京ダイバーシティ･ユネスコ協会（東京都文京区）　会長　**髙山 陽介**

真の平和とは何かを考えたとき、私たちは、「子どもたちが安心して暮らせる社会」を思い描きました。子どもたちの心理的安全性を確保し、前向きにチャレンジできる環境をつくるため、本協会では、子ども・青年たちを中心とし、大人はそのサポート役となり、多世代・多様な活動を行ってまいります。

富士吉田ユネスコ協会（山梨県富士吉田市）　会長　**渡邊 和子**

私たち富士吉田ユネスコ協会の会員は、UNESCOの世界遺産「富士山」の麓で暮らしています。私たちの日々の生活の中にある富士山は、一方で平和の象徴でもあります。私たちは、UNESCO憲章前文の基本精神に基づき富士山の麓の街から国際理解と国際協力を推し進めて参る所存です。

維持会員

株式会社みずほフィナンシャルグループ　取締役兼執行役社長 グループCEO　**木原 正裕**

〈みずほ〉は「ともに挑む。ともに実る。」をパーパスとし、お客さまの挑戦を支え、自らも変革に挑戦しながら、豊かに実る未来の共創に取り組んでおります。連盟の持続可能な社会に向けた活動に賛同し、参画させていただきます。

令和6年

能登半島地震支援

── ユネスコ協会・クラブによる活動 ──

今年の1月1日に発生した「令和６年能登半島地震」。当連盟では「災害子ども教育支援募金」を呼びかけ、被災地の教育復興支援を行っています。

ユネスコ協会・クラブからは、82協会がさまざまな方法で上記募金に協力しました(6月30日現在)。さらに、独自に支援活動を展開する協会もありました。取り組みの一部を紹介します。（企画広報部）

「令和6年能登半島地震　災害子ども教育支援募金」
期間：令和6年1月1日～6月30日 ／ 募金額：5395万5013円

チャリティイベントで寄付を募った　福井県

ふくいユネスコ協会

3月24日（日）に、「第14回ふくいユネスコチャリティ茶会」を福井県庁1階ロビーで開催しました。このお茶会は、「世界の子どもたちに未来を」というユネスコ活動の趣旨のもと、毎年ふくいユネスコ協会が主催するチャリティイベントであり、今年はお隣の石川県で発生した令和6年能登半島地震で被災した子どもたちへの支援を目的に実施しました。

当日は、福井工業大学附属福井高等学校茶道部の皆さんにも、ESD推進事業の一環としてお点前とお運びにご参加いただき、約200席のお客さまをもてなしました。参加料や個人からの募金を合わせて寄付し、能登の子どもたちへの支援活動に役立てました。

福井工業大学附属福井高等学校茶道部の生徒も協力

チャリティバザーの収益を寄付　北海道

札幌ユネスコ協会

札幌ユネスコ協会では、毎年、企業や家庭で余ったカレンダーや手帳、ダイアリーを収集し販売する「ユネスコ チャリティ・カレンダー市」を行い、収益を全額寄付にあてています。35回目となる今年は、約4万部のカレンダー・手帳などが集まり、1月7日(日)～10日(水)にかけて道民活動センターや札幌駅前地下歩行空間で実施しました。学生を含む500人以上のボランティアの協力のもと、5000人を超える来場者があり、収益と緊急に設置した募金箱へ集まった募金を寄付しました。

今年も大盛況だったカレンダー市

徳島ユネスコ協会　徳島県

徳島ユネスコ協会では、20年ほど前より、コロナの時期を除きほぼ毎年チャリティバザーを行っており、「世界寺子屋運動」や「東日本大震災支援」、「首里城復興ユネスコ募金」などへの募金活動をしてきました。

今年は、2月18日(日)に徳島市ふれあい健康館で「能登半島支援バザー」を開催しました。開催にあたっては、会員にハガキで周知しました。徳島新聞に告知を載せる、実施会場にチラシを置くなどの広報も行い、会員や会員の知人・友人、地域の人びとなど、多くの方からバザーの品が集まりました。学校の教員でもある会員が校内に呼びかけ、先生や生徒から品物が寄せられたのは嬉しいことでした。

集まった品物は、食品、タオルや洗剤などの日用品、洋服・着物・アクセサリーなどの服飾品、手づくりの手芸品などさまざまで、会員が値段つけ、会場の準備、販売を行いました。当日は約150人が来場し、バザーの売り上げと、個人的に寄付をしてくれた方の分も含めて寄付しました。

大勢の人の好意でバザーが実現した

市内の学校の児童会・生徒会が主体的に募金を集め、企業会員などからも協力いただいた

群馬県

藤岡地方ユネスコ協会

藤岡地方ユネスコ協会では、これまでもウクライナ緊急募金やトルコ・シリア大地震への緊急支援をはじめ、緊急支援募金の際には市内で広く寄付を募ってきました。「令和6年能登半島地震 災害子ども教育支援募金」でも、藤岡地方ユネスコ協会の企業会員や市内の学校にチラシを配布し、市役所やコミュニティセンターなどの窓口に募金箱を設置しました。

とくに市内の学校では、各校の児童会・生徒会が主体的に募金計画を立て、積極的な活動を行いました。市立のある中学校では、生徒会より「今回の地震に対して自分たちも何かできないか」という声があがり、始業式の日に生徒会長から被災地の支援を全校生徒へ提案。その翌日には、生徒会代表委員会を開催して協力体制をつくりました。放送委員会が放送で募金を呼びかけ、図書委員会が地震の新聞記事を切り抜いて掲示物を作成し、生活委員会があいさつ運動とともに募金の呼びかけを行うなど、各委員会で役割分担しながら生徒たちが一丸となって募金活動に取り組みました。

学校の玄関であいさつ運動とともに募金を呼びかける

生徒会が呼びかけて支援がまとまった

チャリティ式典で！ LINEグループで募って！ 新年会で！ 「被災地のために何かしたい」という思いを寄付に託して

佐野ユネスコ協会 栃木県

創立50周年記念式典をチャリティ式典とし、会費の一部を能登半島地震への寄付として集めました。式典当日は、受付に募金箱を設置し、日本ユネスコ協会連盟鈴木佑司理事長から来場者へ感謝の辞を伝えました。

チャリティ式典で寄付を受け取る日ユ協連鈴木理事長

丸亀ユネスコ協会 香川県

新年会の参加者に募金を呼びかけ、寄付を集めました。

4年ぶりに実施した新年会で寄付を募った

長浜ユネスコ協会 滋賀県

LINEグループ内で呼びかけ、募金の振込用紙を会員に郵送するなどして寄付を募りました。

青森県ユネスコ協会 青森県

募金の振込用紙を会員に郵送し、会員から寄付を行いました。

四国中央ユネスコ協会 愛媛県

毎年開催している映画祭の会場で募金を呼びかけ、多くの参加者から寄付を集めました。

映画祭の会場で寄付を呼びかけると、多くの来場者が応じてくれた

幅広いネットワークを生かして能登の被災地で支援活動を実施

大阪府

箕面ユネスコ協会

箕面ユネスコ協会では、東日本大震災以降、さまざまな人びとや団体とネットワークを築きながら、日本各地の被災された方々と直接つながる支援活動を続けてきました。今回の能登の支援でも、箕面市内外のNPOや大阪府内のユネスコスクールのネットワーク、地域の団体・学校などと協力し、さまざまな活動を実施してきました。

発災直後は迅速に現地へ入り、簡易ベッドや飲料水、毛布、暖房器具などの支援物資を届け、炊き出しを行い温かい食事を提供しました。２月以降は、大阪府内ユネスコスクールの高校生たちとともに瓦礫撤去を行ったり、児童生徒が集めた募金を届けたりしました。発災から半年が過ぎた６月には、メンタルケアを目的に和太鼓の演奏や避難所へおいしい食事を提供するなど、途切れることなく活動を継続しています。

倒壊した家屋の瓦礫撤去作業を行う「がんばろう！つばさネットワーク」の高校生たち。3.11を契機に「北摂つばさ高校」を中心に立ち上がった大阪府内のユネスコスクールのネットワークで、毎年夏に「東日本大震災現地ボランティアツアー」を行い東北の被災地支援活動にも継続して取り組んでいる

お知らせ

年間領収書の発行と送付のお知らせ

日本ユネスコ協会連盟への募金・寄付金は、確定申告していただくことにより、税法上の優遇措置を受けることができます。2024年1月1日～12月31日に受領したご寄付の年間領収書は、2025年2月上旬頃までにお届けする予定です。紛失などによる領収書の再発行は承ることができませんので、申告時まで大切に保管していただきますようお願いいたします。なお、以下の点にもご留意ください。

◆クレジットカードでのご寄付は、決済日ではなく、カード会社・決済代行会社から当連盟に入金された日が受領日となります。11月以降にクレジットカードで寄付された場合、当連盟への入金が翌年1月以降になることがあります。

◆今回発行分より領収書の名義や送付先住所を変更される方は、2024年11月29日（金）までに書面またはメール、もしくはお電話でお知らせください。

●問合せ：総務部（澁澤）
E-mail：soumu@unesco.or.jp
TEL：03-5424-1121

「2023年度 活動レポート」発行

昨年度の活動内容や成果をまとめた報告書「2023年度 活動レポート」を発行しました。以下の2次元バーコードからダウンロードできます。ぜひご覧ください。

https://www.unesco.or.jp/pdf/report/2023_report.pdf

「東日本大震災子ども支援募金 ユネスコ協会就学支援奨学金レポート2023」発行

2023年度の標記事業をまとめた冊子を発行しました。震災から13年目を迎えた被災地の様子を現奨学生と元奨学生へのインタビュー、寄せられたお便りなどとともにお伝えします。

https://www.unesco.or.jp/pdf/reconstruction/2023_education_report.pdf

定時総会・理事会・評議員会報告

■第76回定時総会
6月15日(土)、ハイブリッド(対面・オンライン)により開催した。

Ⅰ.決議事項
第1号議案　2023年度事業報告書（案）及び計算書類等（案）
第2号議案　会員種別代表理事・評議員の定数の見直し（案）
第3号議案　役員報酬規程の改定（案）
⇨ 審議の結果、原案どおり決議された。

Ⅱ.報告事項
・2024年度事業計画書及び収支予算書
・ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について

■第563回理事会
5月18日(土)、ハイブリッドにより開催した。

Ⅰ.決議事項
1. 会員の入会
2. 2023年度事業報告書（案）及び2023年度計算書類等（案）
(1) 2023年度事業報告書（案）
(2) 2023年度計算書類等（案）
3. 第76回定時総会の開催（案）
4. 第59回評議員会の開催（案）
5. 常勤役員（理事長）報酬額について（案）
6.「役員選任に関する規程」・「評議員選任に関する規程」の改定（案）について
7. 2025年度全国大会について
⇨ 審議の結果、原案どおり決議された。

Ⅱ.協議事項
1. 部会等からの報告・提案事項等
(1) 組織部会
(2) 財務部会
(3) U－Smile部会
2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
⇨ 協議の結果、いずれも承認された。

Ⅲ.報告事項
1. 担当理事からの報告
（学校関連・災害復興支援）安田理事
2. 青年理事報告
3. 2023-2024年度 事業進捗報告
4. 代表理事の職務執行状況報告（3月16日～5月17日）
5. 後援・共催事業
6. 日本ユネスコ国内委員会関係報告
7. その他
(1) ユネスコスクールを含む学校に関する構成団体アンケート調査最終報告について
(2) 2024年度理事会・評議員会・総会の運営方法について

■第564回理事会
7月8日(月)～15日(月)、書面により開催した。

Ⅰ.決議事項
1.事務局長の選任
⇨ 審議の結果、原案どおり決議された。

■第565回理事会
9月14日（土）、オンラインにより開催した。

Ⅰ.決議事項
1.会員の入会（名称変更）
2.戦略広報担当理事の任命
3.組織部会、副部会長の交代
⇨ 審議の結果、原案どおり決議された。

Ⅱ.協議事項
1. 部会等からの報告・提案事項等
(1) 組織部会
(2) 財務部会
(3) U－Smile部会
2. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
⇨ 協議の結果、いずれも承認された。

Ⅲ.報告事項
1. 担当理事からの報告
2. 青年理事報告
3. 2024年度 事業進捗報告
4. 代表理事の職務執行状況報告（5月18日～9月13日）
5. 後援・共催事業
6. 日本ユネスコ国内委員会関係報告
7. その他

■第59回評議員会
8月3日（土）、対面により開催した。

1. ユネスコ・アジア文化センターとの合併検討について
2. 2024年度　事業進捗報告
3. 日本ユネスコ国内委員会の活動報告
4.その他
・2024年度 評議員会日程について
・令和版！平和の鐘をならそうプロジェクト実行委員会（青年会員有志）の平和イベントについて
【テーマ別グループディスカッション】
＜テーマ＞
①ユネスコ協会の活性化について
②維持会員間の連携強化と拡充に向けて
③学校等教育機関との連携について

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の精神に共鳴した人びとによって1947年、世界にさきがけ仙台で始まった、民間ユネスコ運動の日本における連合体です。現在全国に約270のユネスコ協会・クラブがあります。会長：佐藤美樹　副会長：大津和子・見上一幸　理事長：鈴木佑司

ユネスコ
2024年10月1日発行 通巻第1181号（1、4、10月の1日発行・年3回）●発行／公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階　TEL 03（5424）1121　FAX 03（5424）1126　発行人：鈴木　佑司